

東國  
文政二年  
六月

卯春  
文政二年

2378  
73



2378  
73

曲亭馬琴作  
歌川豊國画  
前編

# 春の海月玉取

文政二  
甲の春  
鶴喜版



廣東烏延戸の采珠ハ桂海虞衡志に云く阿波の男採磯ガ  
 採珠ハ允恭紀に載られり抑是ハ能樂の海士と種る白狐の玉  
 取り志渡のうゝ見ハ葛の葉の節婦蟹子が裳脱の衣模様  
 ハ波小浦衛海と山形龍王谷ハ大悲の利劍ハ藤卷のかつみ  
 推考る番おろし引くや綱手と浦里ガ忠孝節義恋無常修羅  
 壹場御殿場おて余の女子順礼濱菊さわりん句ふさし合るく  
 恩愛同行苦船の秋歎場ふりやとあらん善少善報思あハ  
 悪報必や天の網まゝ野退治と大團圓寔ふめくくしりくの  
 漸と画よかく一陽齋よちよし訛への新趣向注文書を  
 序しはとよ

文政二年己卯春正月吉  
戊寅三月下旬稿本  
 曲亭馬琴識





讃州志波の  
蛭鳥



東海亭  
蘇山  
蛭鳥  
空の  
千尋  
いの  
のほり

藤原  
淡海公

和泉國  
延虫崎の  
龍王  
狐

大坂  
秋の雲  
東岡舎羅文



浦里苦三郎  
春風

壽 壽

和泉國  
龍王谷の  
少女狐

細手船大夫長道



ち  
葉

壽 壽



故郷  
 鹿鳴  
 十里亭  
 芳州亭狐遊  
 細手島五郎が  
 妻 蛭子



三つ子火や  
 赤いおのろ  
 おくおろ  
 己克亭鶏忠



鯉野大司  
 玄連  
 浦里苔之進秋行



信天翁

帆式

鳴戸  
阿波  
左家の海

漁者浪六

海  
反



志渡判官  
藤季

後  
取











まのめしるは... 三ノ...

あけしは... 一ノ...

か... 二ノ...

あ... 三ノ...

あ... 四ノ...

あ... 五ノ...

あ... 六ノ...

あ... 七ノ...

あ... 八ノ...

あ... 九ノ...

あ... 十ノ...

あ... 十一ノ...

あ... 十二ノ...

あ... 十三ノ...

あ... 十四ノ...

あ... 十五ノ...

あ... 十六ノ...

あ... 十七ノ...

あ... 十八ノ...

あ... 十九ノ...

あ... 二十ノ...

あ... 二十一ノ...

あ... 二十二ノ...

あ... 二十三ノ...

あ... 二十四ノ...

あ... 二十五ノ...

あ... 二十六ノ...

あ... 二十七ノ...

あ... 二十八ノ...

あ... 二十九ノ...

あ... 三十ノ...

あ... 三十一ノ...

あ... 三十二ノ...

あ... 三十三ノ...

あ... 三十四ノ...

あ... 三十五ノ...

あ... 三十六ノ...

あ... 三十七ノ...

あ... 三十八ノ...

あ... 三十九ノ...

あ... 四十ノ...

あ... 四十一ノ...

あ... 四十二ノ...

あ... 四十三ノ...

あ... 四十四ノ...

あ... 四十五ノ...

あ... 四十六ノ...

あ... 四十七ノ...

あ... 四十八ノ...

あ... 四十九ノ...

あ... 五十ノ...



あ... 一ノ...

あ... 二ノ...

あ... 三ノ...

あ... 四ノ...

あ... 五ノ...

あ... 六ノ...

あ... 七ノ...

あ... 八ノ...

あ... 九ノ...

あ... 十ノ...

あ... 十一ノ...

あ... 十二ノ...

あ... 十三ノ...

あ... 十四ノ...

あ... 十五ノ...

あ... 十六ノ...

あ... 十七ノ...

あ... 十八ノ...

あ... 十九ノ...

あ... 二十ノ...

あ... 二十一ノ...

あ... 二十二ノ...

あ... 二十三ノ...

あ... 二十四ノ...

あ... 二十五ノ...

あ... 二十六ノ...

あ... 二十七ノ...

あ... 二十八ノ...

あ... 二十九ノ...

あ... 三十ノ...

あ... 三十一ノ...

あ... 三十二ノ...

あ... 三十三ノ...

あ... 三十四ノ...

あ... 三十五ノ...

あ... 三十六ノ...

あ... 三十七ノ...

あ... 三十八ノ...

あ... 三十九ノ...

あ... 四十ノ...

あ... 四十一ノ...

あ... 四十二ノ...

あ... 四十三ノ...

あ... 四十四ノ...

あ... 四十五ノ...

あ... 四十六ノ...

あ... 四十七ノ...

あ... 四十八ノ...

あ... 四十九ノ...

あ... 五十ノ...









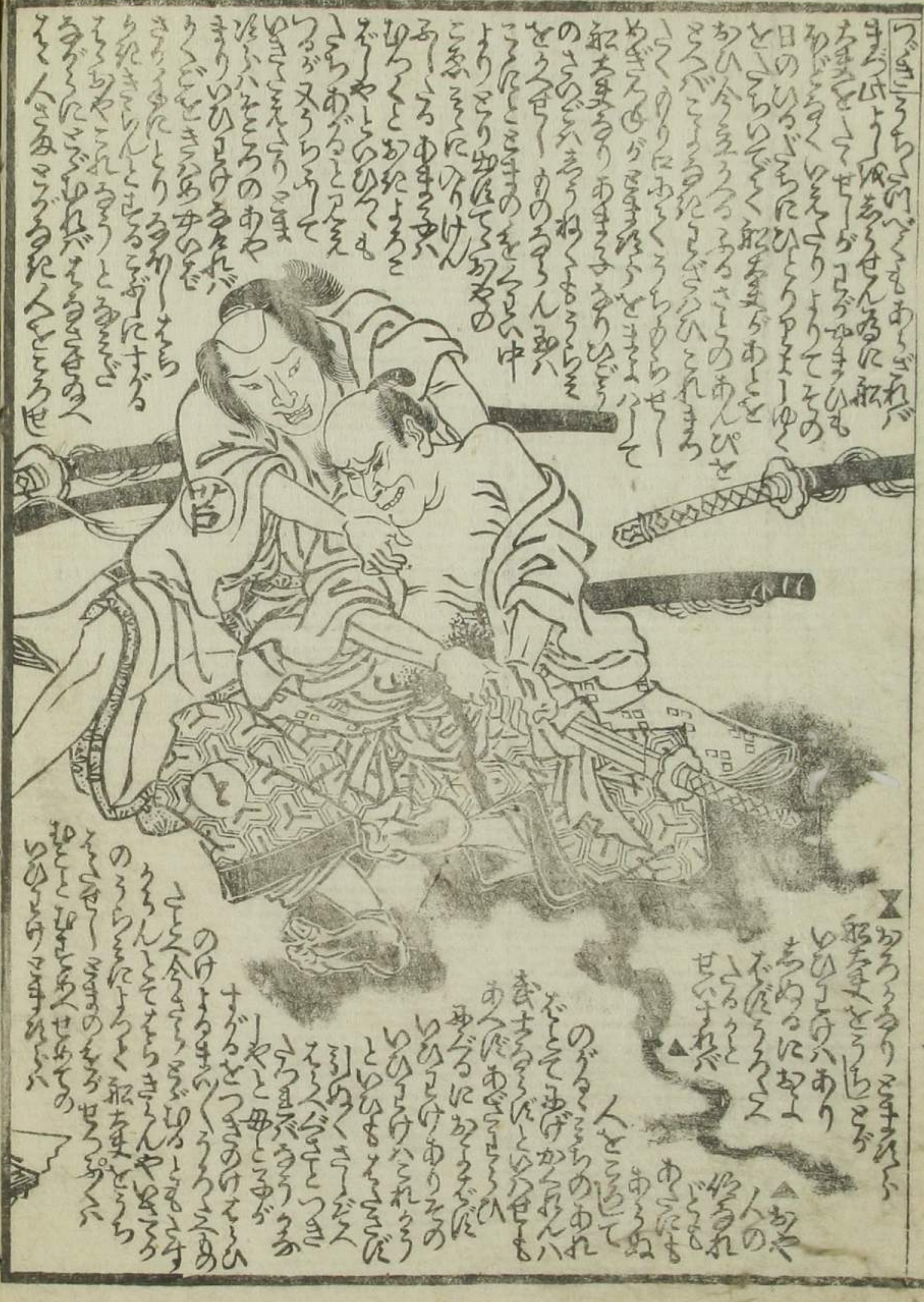
ゆき...  
せ...  
あ...  
せ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...



あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...  
あ...  
あ...





あらうのちのちんせうにゆび又  
 さうさうさんあつてんびんげんへそん  
 してまうりやう中つがうくまうん  
 ちんせうのりやうひらうやうらら  
 せうのりやうひらうやうらら  
 あらうのちのちんせうにゆび又  
 さうさうさんあつてんびんげんへそん  
 してまうりやう中つがうくまうん  
 ちんせうのりやうひらうやうらら  
 せうのりやうひらうやうらら

ちんせうのりやうひらうやうらら  
 せうのりやうひらうやうらら  
 あらうのちのちんせうにゆび又  
 さうさうさんあつてんびんげんへそん  
 してまうりやう中つがうくまうん  
 ちんせうのりやうひらうやうらら  
 せうのりやうひらうやうらら



かて  
 ちんせうのりやうひらうやうらら  
 せうのりやうひらうやうらら  
 あらうのちのちんせうにゆび又  
 さうさうさんあつてんびんげんへそん  
 してまうりやう中つがうくまうん  
 ちんせうのりやうひらうやうらら  
 せうのりやうひらうやうらら

ちんせうのりやうひらうやうらら  
 せうのりやうひらうやうらら  
 あらうのちのちんせうにゆび又  
 さうさうさんあつてんびんげんへそん  
 してまうりやう中つがうくまうん  
 ちんせうのりやうひらうやうらら  
 せうのりやうひらうやうらら





曲直亭馬琴作  
歌川豊国画

後編

# 夷の海日玉取

文政三

卯の春

鶴喜版





三年の初めとせしむる  
のちておどろくは  
いふ年也  
のれねと  
ありそしひ  
小さういけふさあ  
ましれそは百れ  
りれろ命とす  
小ぶこの世のい  
早うらふまらるる  
氷をさせんこえ  
あらとせし  
うけとせし  
たひふ  
あしそしひ  
この世の初めとせしむる  
かうやあひとせしむる  
のちておどろくは  
いふ年也  
とせしむる  
あしそしひ  
この世の初めとせしむる  
かうやあひとせしむる  
のちておどろくは  
いふ年也



三年の初めとせしむる  
のちておどろくは  
いふ年也  
のれねと  
ありそしひ  
小さういけふさあ  
ましれそは百れ  
りれろ命とす  
小ぶこの世のい  
早うらふまらるる  
氷をさせんこえ  
あらとせし  
うけとせし  
たひふ  
あしそしひ  
この世の初めとせしむる  
かうやあひとせしむる  
のちておどろくは  
いふ年也  
とせしむる  
あしそしひ  
この世の初めとせしむる  
かうやあひとせしむる  
のちておどろくは  
いふ年也



つれおぼえの  
 かこめつらて



のさあせいふをまさくへはち  
 たまはれ



いふが世大司たるつり  
かきてくはにこそまれば  
なんざんげれれあか  
まてよりおのののの  
おひおろの  
さよつろの  
あついで  
くらあ  
とろん  
たち  
さき  
くろ  
い  
とま  
えの  
やう  
かぶ  
のつ  
この  
くお

司  
あはれあや  
おののの  
おののの  
あはれあや  
おののの

あついで  
くらあ  
とろん  
たち  
さき  
くろ  
い  
とま  
えの  
やう  
かぶ  
のつ  
この  
くお



いふが世大司たるつり  
かきてくはにこそまれば  
なんざんげれれあか  
まてよりおののの  
おひおろの  
さよつろの  
あついで  
くらあ  
とろん  
たち  
さき  
くろ  
い  
とま  
えの  
やう  
かぶ  
のつ  
この  
くお

このあ  
あついで  
くらあ  
とろん  
たち  
さき  
くろ  
い  
とま  
えの  
やう  
かぶ  
のつ  
この  
くお

あついで  
くらあ  
とろん  
たち  
さき  
くろ  
い  
とま  
えの  
やう  
かぶ  
のつ  
この  
くお



五

さういふと少し里もある  
るをののののののの  
うらうらとあつきの  
うらうらとあつきの  
うらうらとあつきの  
うらうらとあつきの  
うらうらとあつきの  
うらうらとあつきの  
うらうらとあつきの  
うらうらとあつきの



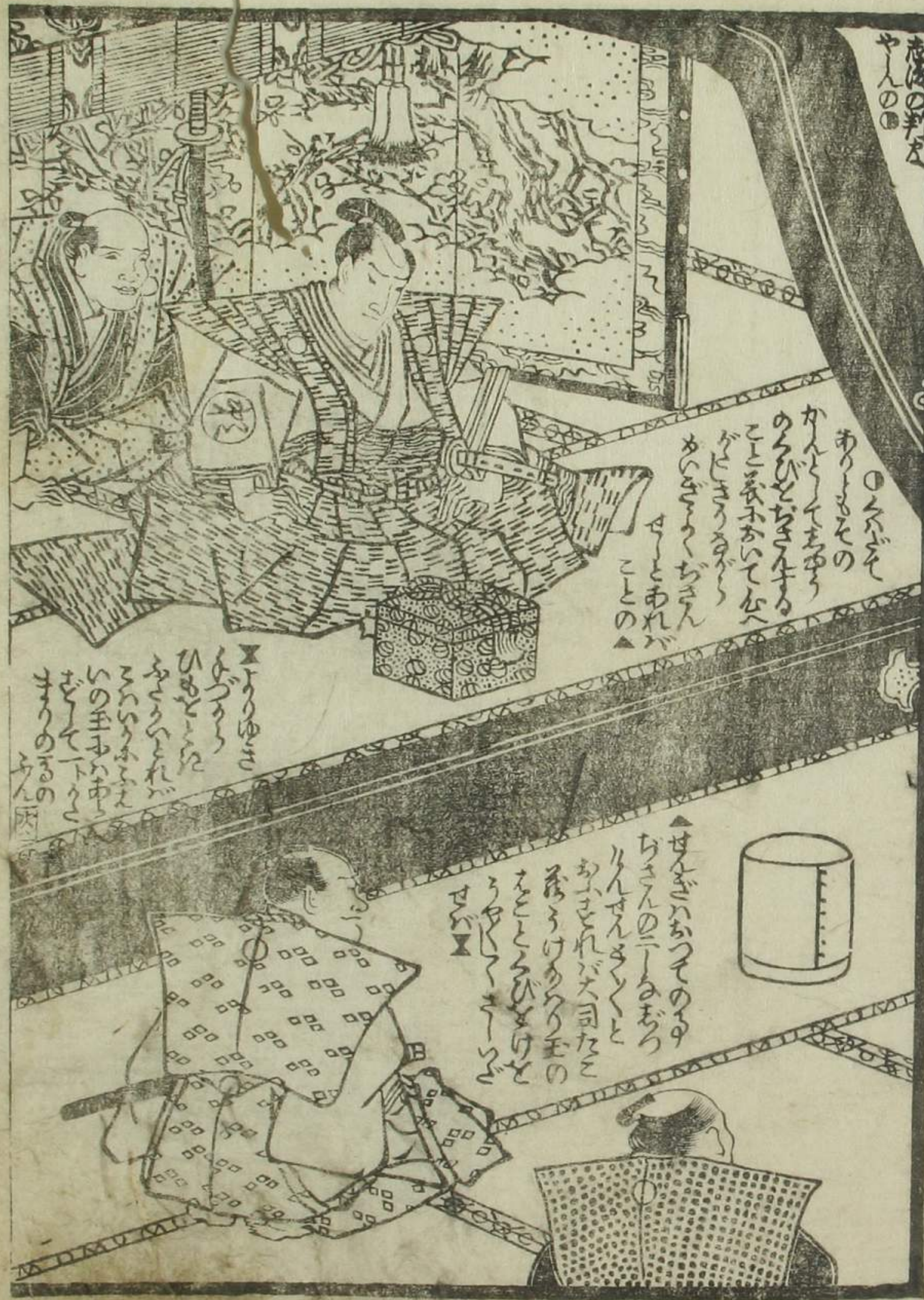
可うあやや  
さかひな  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ

五

つらつら  
つらつら  
つらつら  
つらつら  
つらつら  
つらつら  
つらつら  
つらつら  
つらつら  
つらつら



あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ  
あひひひ

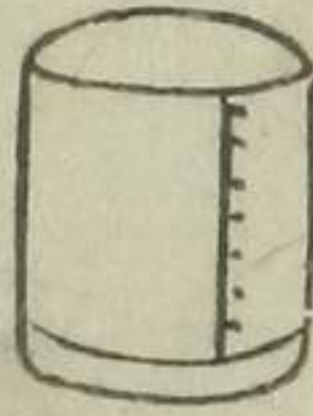


志保の判官  
やんの

あつてその  
かんてい  
のんひと  
ことば  
かた  
こと  
こと

あつてその  
かんてい  
のんひと  
ことば  
かた  
こと  
こと

あつてその  
かんてい  
のんひと  
ことば  
かた  
こと  
こと



あつてその  
かんてい  
のんひと  
ことば  
かた  
こと  
こと

あつてその  
かんてい  
のんひと  
ことば  
かた  
こと  
こと

あつてその  
かんてい  
のんひと  
ことば  
かた  
こと  
こと

あつてその  
かんてい  
のんひと  
ことば  
かた  
こと  
こと

あつてその  
かんてい  
のんひと  
ことば  
かた  
こと  
こと





まわすおつら推大司ふぢあまたを  
 まひくひとやあまをれてさで小五  
 日とまをアガのさうりのがれぬ大  
 ぢのれぢぢぢにくびとせぬらる  
 へたうーそのまをえあり  
 ちのふさくそのひまやあり  
 けあふひそふひあを  
 あめ国をけ けふふ  
 まてひとををやあひと  
 てえくくゆのがれ  
 せられ上まりのさう  
 ひやうえとあてを  
 のまてとさび  
 とむるこあも  
 ひをさ  
 たごは  
 ちをうらて  
 むるがとひれを  
 下あめづつと  
 ちのさふはま  
 めがれりまはさり  
 そのひまにさう人ぢ  
 ひろくしてゆるさう  
 とするさうぢぢぢ  
 あてさふぢぢとさ  
 ちぢぢぢぢぢ  
 つけさあふぢぢぢ  
 あはのまはさうぢ  
 こぢぢぢぢぢぢぢ



このあまのれ  
 のまてとさび  
 とむるこあも  
 ひをさ  
 たごは  
 ちをうらて  
 むるがとひれを  
 下あめづつと  
 ちのさふはま  
 めがれりまはさり  
 そのひまにさう人ぢ  
 ひろくしてゆるさう  
 とするさうぢぢぢ  
 あてさふぢぢとさ  
 ちぢぢぢぢぢ  
 つけさあふぢぢぢ  
 あはのまはさうぢ  
 こぢぢぢぢぢぢぢ

まわすおつら推大司ふぢあまたを  
 まひくひとやあまをれてさで小五  
 日とまをアガのさうりのがれぬ大  
 ぢのれぢぢぢにくびとせぬらる  
 へたうーそのまをえあり  
 ちのふさくそのひまやあり  
 けあふひそふひあを  
 あめ国をけ けふふ  
 まてひとををやあひと  
 てえくくゆのがれ  
 せられ上まりのさう  
 ひやうえとあてを  
 のまてとさび  
 とむるこあも  
 ひをさ  
 たごは  
 ちをうらて  
 むるがとひれを  
 下あめづつと  
 ちのさふはま  
 めがれりまはさり  
 そのひまにさう人ぢ  
 ひろくしてゆるさう  
 とするさうぢぢぢ  
 あてさふぢぢとさ  
 ちぢぢぢぢぢ  
 つけさあふぢぢぢ  
 あはのまはさうぢ  
 こぢぢぢぢぢぢぢ



このあまのれ  
 のまてとさび  
 とむるこあも  
 ひをさ  
 たごは  
 ちをうらて  
 むるがとひれを  
 下あめづつと  
 ちのさふはま  
 めがれりまはさり  
 そのひまにさう人ぢ  
 ひろくしてゆるさう  
 とするさうぢぢぢ  
 あてさふぢぢとさ  
 ちぢぢぢぢぢ  
 つけさあふぢぢぢ  
 あはのまはさうぢ  
 こぢぢぢぢぢぢぢ









山田五郎

七









かくて老後の相友なるを待たず  
のちうひむろお軍のさとの  
玉とすりもくもくさとのちのゆと  
のちのち大司のちのち

家傳神女湯 ぬるは病のゆめす血の  
なぬます月ま吉一包百羽  
精製奇應丸 大包朱中包各半小包  
やまをそくせんせいのち  
調合弘研 をえ醫中  
南側芳を高 滝澤氏製  
出張弘研 社田明社丁  
同明東社 瀧澤宗伯



豊國画 馬琴作

又ぬのまのちのたま  
今よすの上のち  
とゆめそのち  
うこのち  
狐と八つ王の  
まうんふまうの  
まうんふまうの  
まうんふまうの  
まうんふまうの  
まうんふまうの  
まうんふまうの  
まうんふまうの

大坂心社橋  
唐抄所  
河内や太  
江芝  
社明前  
市

玄同放言

著作堂 隨筆



大本全六卷

初版三卷人の  
部より出来

あの書ハ天地人物人事植物器財動物雜篇とを其部門を建ふ  
この謝肇淛の五雜俎のどく部毎に故事と引異同漢學記謬を  
辨トスみのりの考とわりのふ古人未談の説多し聞亦珍説  
奇談と録して人乃視聽とあつてゆめそのち  
と引据一多れ被臆断杜撰乃冗籍前日時好小媚く草紙  
物語と扱ひ下かば作者近年多病よよの杖と莎庭の外に  
曳く且客と辭とあつて久しこの頃の今あの書をあつて引  
窓友れ晤譚にのえより一多れ巻を開くのはその席に臨  
それ言と聴にすらより幼学有益の書といふべし 仙鶴堂識

